

日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会 新型コロナウイルス感染症に関する Q&A の改訂点について (2020 年 9 月)

流行状況が変化し新たな医学的な知見が得られたことをうけ、2020 年 5 月 1 日改訂版を 2020 年 8 月 1 日に再度改訂いたしました。
 主な改訂点は以下の通りです。

2020 年 5 月 1 日版	2020 年 8 月 1 日版	解 説
Q1. 子どもが新型コロナウイルスに感染するとどのような症状がでますか？		
<p>成人で報告されている嗅覚や味覚の異常が子どもで認められるかは今の時点では不明です。また、発疹やしもやけ、川崎病のような症状も欧米諸国から報告されていますが、国内からの報告はまだありません。</p>	<p>成人で報告されている嗅覚や味覚の異常は子どもでは少ないようですが、症状を訴える事ができる 10 代の患者さんの報告はあり注意が必要です。また、しもやけのような症状や、発熱が続き、腹痛・下痢、発疹を認め具合の悪くなる子どもが欧米諸国から報告されています。</p>	<p>嗅覚や味覚異常のある子どもの患者が確認されています。また、全身の炎症を伴う症候群についての情報が集積されたことをうけて、追記しています。</p>
Q2. 子どもの新型コロナウイルス感染症は重症化しますか？		
	<p>* 以下追記</p> <p>欧米からは、発熱が続き、腹痛・下痢、発疹を認める患者さんの中に、心臓の動きが悪くなるような子どもが 10 歳前後を中心に報告されていますが、国内ではまだ少ないようです。</p>	<p>全身の炎症を伴う症候群についての情報が集積されたことをうけて、追記しています。</p>
Q3. 小児ぜんそくなどの合併症を持っている子どもに関して特に注意すべきことはありますか？		
<p>一般的に小児ぜんそくなどの合併症を持っている子どもの呼吸器感染症は重症化する可能性があります。ただ基礎疾患ごとにリスクや対応は異なりますので、かかりつけの医師にご相談ください。また、周囲の人が感染しないように気を付けることが重要です。</p>	<p>一般的に基礎疾患を持っている子どもの呼吸器感染症は重症化する可能性があります。その一方で、新型コロナウイルス感染症者におけるぜんそく患者の割合が少ないこともわかっています。このように基礎疾患ごとにリスクや対応は異なりますので、かかりつけの医師にご相談ください。また、家族など、周囲の人が感染しないように気を付けることが重要です。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症者におけるぜんそく患者の割合が少ないことが報告されたことをうけて追記しました。</p> <p>https://www.ncchd.go.jp/press/2020/pr_20200602.html</p>

2020年5月1日版	2020年8月1日版	解説
Q4. 母乳はやめておいた方がいいですか？		
<p>母親が感染している場合は、接触や咳を介して子どもに感染させるリスクがありますので、直接の授乳は避ける必要があります。母乳自体の安全性については現時点では明らかではありませんが、中国からの報告では、感染した女性26名の母乳を調べたところウイルスは検出されなかったとされています。従って、母親が解熱し状態が安定していれば、手洗い等を行った上で搾乳により母乳を与えることは可能と思われれます。</p>	<p>母親が感染している場合は、接触や咳を介して子どもに感染させるリスクがあります。母乳中からウイルス遺伝子が検出されたという報告はありますが、感染性のあるウイルスが母乳に分泌されるかどうか不明であり、母乳の利点を考えれば母乳をやめておいた方がよいということはありません。母親の病状や希望により以下の3つの方法が考えられます。①授乳前の確実な手洗いと消毒、マスクを着用して直接授乳、②確実な手洗い、消毒後に搾乳をし、感染していない介護者による授乳、③（母乳の利点を説明した上で）人工栄養を選択する場合は人工乳を授乳。</p>	<p>母乳の安全性についても新しい知見をふまえ改訂していますが、母乳を与えて良いとする基本姿勢に変わりはありません。授乳に関する具体策を記載しました。</p>
Q5. 子どももマスクはしておいた方がいいですか？マスクが出来ない場合はどうしたらいいですか？		
<p>感染している人のくしゃみや咳に含まれる飛まつを直接浴びないという観点からは、マスクをすることの利点はあるかと思いますが、小さな子どもでは現実的ではないと思われれます。</p>	<p>感染している人のくしゃみや咳に含まれる飛まつを直接浴びないという観点からは、マスクをすることの利点はあるかと思いますが、2歳以下の小さな子どもでは現実的ではないと思われれます。4-5歳になるとマスクの着用は可能ですが、個人差があるので、正しいつけ外し方は保護者の指導が必要です</p>	<p>子どもの発達段階をふまえ、年齢ごとの考え方を追記しました。</p>
Q6. 子どもの症状が新型コロナウイルスによるものかもしれないと思ったら早めに医療機関を受診した方がいいですか？		
<p>現時点（2020年5月1日）において、国内で新型コロナウイルスに感染している子どもは徐々に増えつつありますが、ほとんどは家庭内で保護者からうつったものです。また、他の病原体による感染症の可能性も十分ある状況です。地域による差がありますので、お住いの地域の保健所などの情報にご注意ください。</p> <p>実際には、新型コロナウイルス感染症を疑って一般の医療機関や休日夜間急病診療所等を受診しても、診断を確定するための検査はできません。むしろ受診によって新型コロナウイルスの感染の機会を増やす危険性もあります。</p> <p>さらには、新型コロナウイルス感染の軽症者に対する特別</p>	<p>現時点（2020年8月1日）において、国内で新型コロナウイルスに感染している子どもは増えつつあり、多くは家庭内で保護者からうつったものか、集団の中で感染したものです。子どもであっても濃厚接触者や健康観察対象者となった場合、何らかの症状を認めた場合は、まず地域の帰国者・接触者相談センターにご相談ください。新型コロナウイルス感染症を疑って一般の医療機関や休日夜間急病診療所等を受診しても、診断を確定するための検査ができない可能性があります。</p> <p>流行状況や検査体制は地域によって異なりますので、お住いの地域の保健所などの情報にご注意ください。また、感染症の症状がある患者については、医療機関ごとに受診時間や受付場所をかえるな</p>	<p>各医療機関で感染対策の整備が進みました。これをうけ、文書を改訂しました。</p>

2020年5月1日版	2020年8月1日版	解 説
<p>な治療法はありません。今の段階では、呼吸数が多い、肩で息をする、呼吸が苦しい、唇や顔の色が悪いなど、肺炎を疑う症状があり、入院が必要と考えられる場合を除いては、新型コロナウイルス感染症を心配して医療機関を受診することはお勧めできません。</p> <p>なお、子どもでは、原因不明の発熱が続く、呼吸が苦しい、経口摂取ができない、ぐったりしているなどの様子が見られるときは、様々な病気が考えられますので速やかに医療機関を受診してください。ただし、子どもであっても濃厚接触者や健康観察対象者である場合は、まず地域の帰国者・接触者相談センターにご相談ください。</p>	<p>ど感染対策を工夫している場合があります。受診前に医療機関への確認が必要です。</p> <p>なお、子どもでは、原因不明の発熱が続く、呼吸が苦しい、経口摂取ができない、ぐったりしているなどの様子が見られるときは、新型コロナウイルス以外にも様々な病気が考えられますので速やかな受診が必要です。</p>	
<p>Q7. 乳幼児健診や予防接種を遅らせたほうが良いですか？</p>		
	<p>* Q9 を Q7 に</p>	
<p>Q8. 新型コロナウイルス感染症以外の病気にかかっています、入院しての検査や手術は延期したほうが良いですか？</p>		
	<p>* 新しい項目です</p>	
<p>Q9. 病院における面会は遠慮したほうが良いですか？</p>		
	<p>* Q7 を Q9 に</p>	
<p>Q10. もし子どもが新型コロナウイルス感染症にかかった場合、入院は必要ですか？また、入院した場合に保護者の面会や付き添いは可能ですか？</p>		
<p>子どもが新型コロナウイルス感染症にかかった場合、ほとんどの場合は軽症で医学的には入院する必要はありません。また、ほとんどの場合は家庭内で保護者から子どもにうつったものになりますので、隔離を行う目的で子どもを単独で入院させるケースは限られると思われます。したがって、軽症の場合は自宅あるいは宿泊施設等での療養となる可能性があります。ただし保健所との相談が必要であり、また自宅療養後も電話等による健康状態の確認が必要になります。</p>	<p>子どもが新型コロナウイルス感染症にかかった場合、多くの場合は軽症で医学的には入院する必要はありません。しかし、法律に則って入院を指示される可能性はあります。家庭内で保護者から子どもにうつった場合は、親と子どもが同時に入院する可能性があります。保護者が感染していない場合に、隔離を行う目的で子どもを単独で入院させることもあります。付き添いの可否については子どもの年齢や病院の状況により個々に判断する事になります。自宅あるいは宿泊施設等での療養となる可能性もあります。ただし保健所との相談が必要であり、また自宅療養後も電話等による健康状態の確認が必要になります。</p>	<p>各地で発生した様々な事例をうけ、当該地域の医療事情に応じた柔軟な対応が必要であることが明らかになりました。現時点でとり得る対応について記載を加えました。</p>

2020年5月1日版	2020年8月1日版	解 説
Q11. 保育所、幼稚園、学校などに行くことは控えたほうが良いでしょうか？		
<p>子どもへの感染の多くは同居している成人（保護者）感染者からの伝播によるものです。現時点（2020年5月1日）では保育士からの子どもへの感染や子ども同士の感染は少なく、保育所、幼稚園、学校などへの通園、通学を自主的に控える理由はありません。しかしながら、地域で子どもの患者が発生した場合、またはそれが想定される場合には、一定期間、休園や休校になる可能性があります。今後の流行状況に応じて、臨機応変な対応が必要となりますので、お住まいの地方自治体からの指示に従ってください。</p> <p>また、各家庭内で感染者がでた場合は、その子どもは濃厚接触者として登校、登園を控えることとなります。また、厚生労働省から微熱や風邪の症状がある場合は、登校、登園を控えるようにとすすめられています。それらを守っていただくことが大切です。</p>	<p>感染が拡大していない地域では、子どもへの感染の多くは同居している成人（保護者）感染者からの伝播によるものです。そのため、保育所、幼稚園、学校などへの通園、通学を自主的に控える理由はありません。しかし、最近（2020年8月1日現在）では集団生活の中での感染が報告されています。したがって、子どもの患者が発生した場合は、一定期間、休園や休校になる可能性があります。流行状況に応じて、臨機応変な対応が必要となりますので、お住まいの地方自治体からの指示に従ってください。</p> <p>また、各家庭内で感染者がでた場合は、その子どもは濃厚接触者として登校、登園を控えることとなります。また、厚生労働省から微熱や風邪の症状がある場合は、登校、登園を控えるようにとすすめられています。まずは、それらを守っていただくことが大切です。なお、症状のある5歳未満の子どもからのウイルス排泄量が比較的多いことや、子どもは無症状者も少なくないこと、便にウイルスが長期間排泄されることがわかってきました。まわりの大人は、こまめな手洗いや、マスクの着用などを徹底する事が必要です。</p>	<p>感染の拡大とともに小児の集団生活の場における感染事例が確認されていることをうけ、注意点を含めて改訂しています。しかし、子どもの感染の大多数は依然として家庭内であり、必要な感染対策をとれば登校などを控える必要はない、という姿勢に変わりはありません。</p>
Q12. 子どもは外出や友達と遊ぶことを避けたほうが良いでしょうか？		
	<p>* 以下追記</p> <p>夏休みの行き先については、流行状況を確認し移動の自粛要請が出ていないことを確認しましょう。子ども達の屋外、屋内の遊びについての注意事項は下記の資料も参考にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事をするときは対面にならないように工夫する ・最低1時間に1回換気してください 	<p>対面による食事に伴うリスクについては、多くの知見が得られてきていますので、追記しています。</p>